

## 2.環境会計

環境保全活動の情報開示と効率的推進を目的として、環境保全コストと環境保全効果を定量的に管理しています。

●**集計範囲**：奥村組の店内および工事所。ただし、「事業エリア内で生じる効果（オフィス活動）」は関係会社含む。

●**期 間**：2021年4月1日～2022年3月31日

●**集計方法**：

①工事所におけるコストはサンプリングした工事所で算定し、完成工事高により全社換算を行いました。サンプリング工事所は、土木10カ所、建築10カ所の合計20カ所（完成工事高比率20%）です。ただし、建設廃棄物処理費用については全額集計しています。

②サンプリングした工事対象は、当社単独工事および当社が幹事会社である共同企業体工事です。

### □環境保全コスト

(単位：百万円)

分 類	主な取り組み	2020年度	2021年度	
事業エリア内コスト	公害防止コスト	騒音・振動防止、水質汚濁防止等の公害防止対策	1,111	1,538
	地球環境保全コスト	地球温暖化防止および省エネ等の対策	12	9
	資源循環コスト	建設副産物の分別、リサイクルおよび適正処理等	3,604	3,531
	小計	4,727	5,078	
上・下流コスト	環境に配慮した設計	4	5	
管理活動コスト	環境マネジメントシステム維持および教育	364	177	
研究開発コスト	環境関連技術研究開発	266	288	
社会活動コスト	地域の環境保全活動への協力等	13	22	
環境損傷対応コスト	近隣補修等	32	2	
	合計	5,406	5,572	

参考①環境関連設備投資額：2020年度72百万円、2021年度71百万円

②研究開発費の総額：2020年度2,274百万円、2021年度1,764百万円

	2020年度	2021年度
環境コスト比率	2.6%	2.4%
産業廃棄物処理コスト比率	1.7%	1.5%
環境関連研究開発コスト比率	11.4%	16.0%

(注) ①環境コスト比率＝環境保全コスト／完成工事高

②産業廃棄物処理コスト比率＝産業廃棄物処理コスト／完成工事高

③環境関連研究開発コスト比率＝環境関連研究開発コスト／全ての研究開発コスト

### □環境保全効果

効果の内容		2020年度	2021年度	
事業エリア内で生じる効果 (施工段階)	建設廃棄物リサイクル量	597千t	515千t	
	建設発生土リサイクル量	503千m <sup>3</sup>	254千m <sup>3</sup>	
	CO2排出量	49,500t-CO2	40,400t-CO2	
事業エリア内で生じる効果 (オフィス活動)	PPC用紙使用量(A4換算)	11,564千枚	9,860千枚	
	電気使用量	2,700千kwh	3,800千kwh	
	CO2排出量	1,460t-CO2	1,960t-CO2	
上・下流で生じる効果	グリーン調達	生コンクリート	125千m <sup>3</sup>	80千m <sup>3</sup>
		セメント	8千t	2千t
		鉄筋	49千t	89千t
		土砂	41千m <sup>3</sup>	31千m <sup>3</sup>
		アスファルト・コンクリート	12千t	25千t
		砕石	116千t	110千t
グリーン購入(文具等)		13百万円(3品目)	9百万円(3品目)	